



# 山本真矢 京都支部 支部長

こうやって機会を作っていただいて、初めて本当に身近なものとして感じられたように思います。

今回は京都支部の山本真矢支部長に「京都工場保健会」を訪問し、検診車を見学していただきました。健康診断でお世話になった経験のある方も多い検診車。その感想や、向日町競輪場の存続問題で揺れる支部についてのお話を伺いました。

## 競輪ってこんなこと やっっているんだ!!

ファンの皆さんの声に応えたい！  
向日町競輪場存続に向け一丸となつて  
色々な活動に取り組んでいます。

—今回、検診車を見学されていかがでしたか。

「検診車の存在はもちろん知っていますし、街中で見かけることもあったんですけど、こうやって施設を訪ねてお話を聞くというのは初めてで、やはり競輪をやる意義として、こういう社会貢献の活動は大きいわけですし、色々などころに補助金が使われているというのは頭では分かっていますが、実際に触れる機会はなかなか無かったので、今回こうやって機会を作っていただいて、初めて本当に身近なものとして感じられたように思います」

—向日町競輪場の存続問題など大変な時期かと思いますが、現在の京都支部の雰囲気は？

「やはり今は向日町競輪場の存続問題

を抱えていますし、これは前支部長でいらした八倉伊佐夫さんからの引き継ぎもありですけど、それこそ49名全員丸となつて色々な活動に取り組んでもらっています。例えば自転車教室を開いたり、競輪場周辺のゴミ拾いだとか。もちろん無償ですけど、皆には積極的に協力してもらえて有り難いですね。僕らにとつてはこの競輪場の存続問題は当然マ

イナスな事態ではあるんですけど、ただ、本当は自分たちが走る以外に貢献できることを今までももつとしてこないといけなかったんじゃないかと。そういうことを考えさせられる一つのきっかけにはなったのかなと」

—この4月から支部長になられたばかりですが、これから京都支部をどんな風にしていきたいですか。

「京都には村上兄弟をはじめ、川村晃司、稲垣裕之、伊藤保文、僕の弟子の藤木裕も調子良くなつてきたし、良い選手がたくさんいるんですよ。そういう選手を見て、後輩たちが自分もあんなりたいつて思ってもらえる体制を作りたいんです。頑張っている人が頑張っている分だけの見返りがちゃんとくるような形にはしてやりたいなど。僕はもう土台さえ作れば良いと思つているんで、僕の代で完成じゃなくて、次の支部長がある程度やりやすいような土台作りができれば」

—最後にファンの皆さんにメッセージをお願いします。

「ファンの皆さんには『向日町競輪場を無くさんとしてや』とか『応援してるから』とか、色々と声を掛けていただくんです。これはファンの方だけでなく、場内の売店や食堂で働く方たちからもなんですけど、やはり昔からのファンの皆さんというのはこれまでずっと競輪場全体を支えてくれたりの方々ですから、その気持ちにに応えたいですよ。なかなかおつきりとした状況が見えづらいんですけど、9月の京都府議会でも存続が決まるので、なんとか向日町競輪場を残すという形と、あとはファンサービスを強化してやって行きたいと思つています。向日町競輪場をよろしくお願いします」